5/31 朝日

肥料は廃棄うどん利用

緑のカーテン 児童が植える

県庁

高松市の県庁で30日、夏の日差しを和らげる「緑のカーテン」を作るために、小学生がゴーヤとアサガオの苗を植えた。ガラス張りの食堂前に置いた高さ4㍍の柵にツルをはわせて夏に備える。肥料には廃棄うどんから作った液肥を使う。

緑のカーテンは今年で3回目。昨年は食堂の室温を8度下げることができた。使う液肥は、うどん店で余った麺から。廃棄うどんを発酵させてバイオエタノールとメタンガスを取り出す取り組みが昨年から市や製麺会社で始まっており、液肥は残りかすをさらに発酵させて作っている。

苗は、香川大教育学部付属高松小学校（高松市番町5丁目）の4年生36人が植えた。桑原絵美さん(9)は「大きく元気に育って、おいしいゴーヤの実になってほしい」と話した。

（柳谷政人）

アサガオやゴーヤを植えて「緑のカーテン」を作る小学生ら＝高松市の県庁